慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

| | |
|---|---|
| Title | 集中授業「アウトドアレクリエーション」における学生による授業評価 :<br>総合評価に寄与する要因について |
| Sub Title | Student evaluation in the outdoor recreation intensive course : the primary factors which contribute comprehensive evaluation |
| Author | 野口, 和行(Noguchi, Kazuyuki)<br>吉田, 泰将(Yoshida, Yasumasa)<br>佐々木, 玲子(Sasaki, Reiko)<br>村山, 光義(Murayama, Mitsuyoshi)<br>田中, 伸明(Tanaka, Nobuaki) |
| Publisher | 慶應義塾大学体育研究所 |
| Publication year | 1997 |
| Jtitle | 体育研究所紀要 (Bulletin of the institute of physical education, Keio university). Vol.36, No.1 (1997. 3) ,p.67- 74 |
| JaLC DOI | |
| Abstract | The purpose of this study was to investigate evaluation by students in the four-day outdoor recreation intensive course in Keio University. The subjects were a total of 45 male and female students. To measure evaluation, the questionaire including 35 items was administered. The fol lowing resul ts are 0b tained: 1) 81.8% of students evaluated outdoor recreation intensive course "very good". 2) Result of multiple regression analysis,c omprehensive evaluation depended on "method and contents of the lesson" and "result of the lesson". 3) In the method of free answer, many kinds of answers, relating to the method and contents of the lesson, were shown positively. On the other hand, many kinds of answers, relating to the schedule of the lesson, were shown negatively. |
| Notes | |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00360001-0067 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 集中授業「アウトドアレクリエーション」における学生による授業評価

## ——総合評価に寄与する要因について——

野口和行* 吉田泰将** 佐々木玲子**
村山光義* 田中伸明*

## Student Evaluation in the Outdoor Recreation Intensive Course
## ——The primary factors which contribute comprehensive evaluation——

Kazuyuki Noguchi[1], Yasumasa Yoshida[2], Reiko Sasaki[2],
Mitsuyoshi Murayama[1] and Nobuaki Tanaka[1]

The purpose of this study was to investigate evaluation by students in the four-day outdoor recreation intensive course in Keio University. The subjects were a total of 45 male and female students. To measure evaluation, the questionaire including 35 items was administered.

The following results are obtained:

1) 81.8% of students evaluated outdoor recreation intensive course "very good".
2) Result of multiple regression analysis, comprehensive evaluation depended on "method and contents of the lesson" and "result of the lesson".
3) In the method of free answer, many kinds of answers, relating to the method and contents of the lesson, were shown positively. On the other hand, many kinds of answers, relating to the schedule of the lesson, were shown negatively.

**Key words:outdoor recreation, intensive course, student evaluation**

## はじめに

大学審議会の各種答申（1991）による大学設置基準の大綱化に伴い，大学体育においてもカリキュラムの充実が望まれ，各大学で改革が進んでいる。慶應義塾大学においても1993年度から保健体育科目が選択制となった。これに伴い，学生のスポーツに対する意識やニーズを考慮に入れた多彩な種目が開設されるようになり，現在に至っている。

また近年，大学教育の充実に向けての自己点検，自己評価に関する関心が高まりつつあり，大学体育においても，学生による授業評価が行われていることが報告されている。

スキーの集中授業における学生による授業評価に関する研究では，中野ら（1992）[4]，綿ら（1993）[6]，本間ら（1995）[1]のものがある。また，集中授業「マリン」における学生による授業評価に関する研究では舛本ら（1993）[2]のものがある。中野らは，独自に作成した授業目標達成度，実習生活状況，プログラム，実習参加費等を内容としたアンケート調査を行い，全体結果及び男女差，技術レベル差による検討を行っている。綿ら，舛本らは授業の目標，方法，成果，学生の受講態度及び自由記述をまとめ，授業の総合評価に寄与する要因について林の数量化類による判別分析を行っている。また，

*慶應義塾大学体育研究所助手
**慶應義塾大学体育研究所専任講師
[1]Assistant of the Institute of Physical Education, Keio University.
[2]Assistant professor of the Institute of Physical Education, Keio University.

本間らは，スキー実習に関する期待と満足及び授業評価に関する調査を行い，期待度と満足度の関係及び授業の総合評価に寄与する要因について報告している。

「アウトドアレクリエーション」（以下，本授業と略す）は，高まりつつあるアウトドアスポーツに対するニーズに応えるために1995年度から開設された3泊4日の集中授業であり，近年の健康志向，スポーツ志向，自然志向の高まりに呼応して多くの履修希望者を得ている。しかし，開設2年目ということもあり授業の目的や内容等多くの改善の余地が残されている。

本授業においても，学生による授業評価を行い，その結果を今後の授業にフィードバックすることは重要なことである。また，授業の総合評価に寄与する要因を明らかにし，先行研究と比較することは本授業と他の集中授業との相違点を見いだす上で意味があると考えられる。

そこで，本研究では，集中授業「アウトドアレクリエーション」を事例に，学生による授業評価を実施し，授業の目的，方法，成果等を検討することにより，授業のフィードバック情報を得ることを目的とする。

## 方　　法

### 1. 調査対象

調査対象は，1996年7月24日～27日に，長野県立科町の慶應義塾立科山荘を中心として行われた集中授業「アウトドアレクリエーション」に参加した，男子24名，女子21名の計45名である。

### 2. 授業の概要

本授業では，自然の中で行われるレクリエーショナルな活動を通して，周囲の自然環境の理解，自然の中での各活動に関する技術とそれに関わる様々な知識の習得，集団生活を通しての人間関係の理解，を目的としている。事前に2回のオリエンテーションを実施し，授業の目的や内容について説明し，生活班及び2日目の選択プログラムを決定をした。実習中は7～8名で生活班を構成し各班に1名の教員がついた。各プログラムは6名の教員及び2名の学生スタッフが指導を担当した。2日目，3日目のプログラムは学生の自由選択とし，その他自由参加によるプログラムも実施した。基本的には宿舎泊であるが，希望者にはテント泊も行った。4日間のスケジュールを表1に示す。

**表1．実習のスケジュール**

| | 7月24日(水) | 7月25日(木) | 7月26日(金) | 7月27日(土) |
|---|---|---|---|---|
| 5 | | | 自由参加による | |
| 6 | | | モーニングプログラム<br>・周辺の散策 | |
| 7 | | 朝　食 | 朝　食 | 朝　食 |
| 8 | | 身体活動を主とした<br>自由選択プログラム | 静的な活動を主とした<br>自由選択プログラム | |
| 9 | | ・カヌー | ・読書 | 撤収 |
| 10 | | ・トレッキング<br>・サイクリング | ・クラフト<br>・ケーキ作り | |
| 11 | | ・サバイバルテクニック | ・絵はがき作り<br>・自然観察等 | ふりかえり |
| 12 | | | | 閉講式・解散 |
| 13 | 現地集合 | 昼食 | 昼食 | |
| 14 | 開講式・<br>オリエンテーション | | | |
| 15 | | 帰着 | | |
| 16 | テント設営<br>アウトドアクッキング | フリータイム | アウトドアパーティー準備 | |
| 17 | | | | |
| 18 | | 夕　食 | | |
| 19 | 選択活動別ミーティング | | | |
| 20 | | 自由参加による<br>ナイトプログラム<br>・星の観察 | 各班メニュー持ち寄りによる<br>会食形式のパーティー | |
| 21 | | | | |
| 22 | 就　寝<br>(希望者はテント泊) | 就　寝<br>(希望者はテント泊<br>またはビバーク) | 就　寝<br>(希望者はテント泊) | |
| 23 | | | | |

### 3. 調査及び手続き

調査は，綿ら[6]，本間ら[1]の研究を参考に作成した35項目（5段階評価）と自由記述からなる調査用紙を用いた。内容は，授業の目標に関する項目（10項目），授業の方法・内容に関する項目（10項目），授業の成果に関する項目（5項目），指導者に関する項目（3項目），コミュニケーションに関する項目（3項目），自己評価に関する項目（3項目）と自由記述（授業で良かった点，悪かった点，改善方法，その他），及び授業の総合評価（5段階評価）が含まれている。この調査用紙を実習最終日閉講式直前に配布・回収した。

結果の処理は，市販の統計ソフト Visual Stat を用いた。

## 結果と考察

### 1. 授業評価の結果

授業評価に関する調査を行ったところ，44名から有効回答が得られた。各質問項目の5段階評価の回答に対し，「全くそう思う」（5点）から「全くそう思わない」（1点）を与え，平均点，標準偏差を算出した。その結果を表2に示す。

授業の目標については，「全くそう思う」と「そう思う」を合わせた肯定的評価が，「危険性の認識と自己の安全の確保」（56.8%）及び「基礎的な技術の習得」（65.9%）においてやや低い傾向を示したが，その他の目標（項目では1から9及び13）においては70%以上の学生が肯定的評価をしており，授業の目標は概ね達成できたと考えられる。

また，授業の総合評価においても「非常に良かった」が81.8%を占め，「良かった」の18.2%と合わせると肯定的評価が100%であった。綿ら[6]，舛本ら[2]，本間ら[1]の研究結果においても総合評価の5段階評価において平均値は4.0以上の高い評価であったと報告している。本研究においても「非常に良かった」（5点）から「非常に悪かった」（1点）を与えたところ平均値が4.82だったことから，本実習の評価は高かったといえる。

34項目中において肯定的評価の高かった項目は，「各種選択プログラムは良かった」，「学生スタッフは良かった」，「教員は十分に準備し熱意を持っていた」の3項目（100%）をはじめ，「会食形式のパーティーは良かった」（97.7%），「アウトドアクッキングは良かった」（95.5%），「私はこの授業を他の学生に薦めたい」（95.5%），「教員は十分な知識を持っていた」（90.9%），「私はこの授業期間を通して常に出席しようと心がけた」（90.9%）であった。

逆に相対的に肯定的評価が低く，改善を要すると考えられる項目は，「理論と実技を関連づけて学習できた」（43.2%），「事前のオリエンテーションは良かった」（50.0%），「授業の理解を深めるための補助手段は適切に用いられていた」（52.3%），「危険性の認識と自己の安全の確保」（56.8%），「基礎的な技術の習得」（65.9%）であった。今回の授業においては，各活動の体験を重視していたことから，理論的な背景についてのアプローチが少なかったことがあげられ，大学体育の一環として今後も本授業を実施していくためには，事前のオリエンテーションを含め実技と理論の整合性について検討する必要があると考えられる。

表２．授業の結果

v5：全くそう思う(5点)　v4：そう思う(4点)　v3：どちらともいえない　v2：そう思わない(2点)　v1：全くそう思わない(1点)

| 項　目 | V5(%) | V4(%) | V3(%) | V2(%) | V1(%) | V5+V4(%) | Mean | S.D |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1.自然の中での様々な活動に関する基礎的な技術が習得できた | 11.4 | 54.5 | 29.5 | 4.5 | 0.0 | 65.9 | 3.73 | .73 |
| 2.自然の中でのルール，エチケット，マナーが理解できた | 31.8 | 56.8 | 9.1 | 2.3 | 0.0 | 88.6 | 4.18 | .69 |
| 3.周りの自然環境に対する理解が深まった | 29.5 | 47.7 | 18.2 | 4.5 | 0.0 | 77.3 | 4.02 | .82 |
| 4.自然の中での過ごし方についてバリエーションが広がった | 45.5 | 40.9 | 6.8 | .8 | 0.0 | 86.4 | 4.25 | .87 |
| 5.危険性の認識と自己の安全の確保について理解できた | 13.6 | 43.2 | 27.3 | 13.6 | 2.3 | 56.8 | 3.52 | .98 |
| 6.友人や教師とのコミュニケーションについて理解できた | 38.9 | 47.7 | 11.4 | 2.3 | 0.0 | 86.4 | 4.23 | .74 |
| 7.集団生活のルール，エチケット，マナーについて理解できた | 20.5 | 63.6 | 11.4 | 4.5 | 0.0 | 84.1 | 4.00 | .72 |
| 8.自然の中での身体的な活動について認識が深まった | 34.1 | 40.9 | 20.5 | 4.5 | 0.0 | 75.0 | 4.05 | .86 |
| 9.自然の中での静的な活動について認識が深まった | 45.5 | 27.3 | 22.7 | 4.5 | 0.0 | 72.7 | 4.14 | .93 |
| 10.運動量は十分確保されていた | 40.9 | 38.6 | 13.6 | 6.8 | 0.0 | 79.5 | 4.14 | .90 |
| 11.理論と実技を関連づけて学習できた | 15.9 | 27.3 | 45.5 | 11.4 | 0.0 | 43.2 | 3.48 | .90 |
| 12.大学生としてふさわしい授業であった | 43.2 | 45.5 | 9.1 | 2.3 | 0.0 | 88.6 | 4.30 | .73 |
| 13.生涯スポーツとしての各種アウトドアスポーツを認識できた | 40.9 | 45.5 | 13.6 | 0.0 | 0.0 | 86.4 | 4.27 | .69 |
| 14.班分けの方法は適切であった | 27.3 | 43.2 | 27.3 | 2.3 | 0.0 | 70.5 | 3.95 | .81 |
| 15.事前のオリエンテーションは良かった | 20.5 | 29.5 | 31.8 | 15.9 | 2.3 | 50.0 | 3.50 | 1.07 |
| 16.テント・タープの設営実習は良かった | 38.6 | 47.7 | 4.5 | 9.1 | 0.0 | 86.4 | 4.16 | .89 |
| 17.アウトドアクッキングは良かった | 68.2 | 27.3 | 4.5 | 0.0 | 0.0 | 95.5 | 4.64 | .57 |
| 18.各種選択プログラムは良かった | 84.1 | 15.9 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 4.84 | .37 |
| 19.ナイトプログラムは良かった | 77.3 | 11.4 | 11.4 | 0.0 | 0.0 | 88.6 | 4.64 | .68 |
| 20.モーニングプログラムは良かった | 40.9 | 34.1 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 75.0 | 4.15 | .81 |
| 21.会食形式のパーティーは良かった | 79.5 | 18.2 | 2.3 | 0.0 | 0.0 | 97.7 | 4.77 | .48 |
| 22.学生スタッフは良かった | 75.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 4.45 | .44 |
| 23.教師とのコミュニケーションは十分であった | 34.1 | 45.5 | 13.6 | 6.8 | 0.0 | 79.5 | 4.07 | .87 |
| 24.学生とのコミュニケーションは十分であった | 34.1 | 50.5 | 13.6 | 2.3 | 0.0 | 84.1 | 4.16 | .75 |
| 25.授業は創造性に富むものであった | 34.1 | 50.0 | 15.9 | 2.3 | 0.0 | 84.1 | 4.14 | .77 |
| 26.この授業から触発されるものが多かった | 54.5 | 29.5 | 11.4 | 2.3 | 0.0 | 84.1 | 4.32 | .93 |
| 27.この授業から自分の期待していたものが満足された | 54.5 | 31.8 | 13.6 | 0.0 | 0.0 | 86.4 | 4.41 | .72 |
| 28.教師は十分な知識を持っていた | 47.7 | 43.2 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 90.9 | 4.39 | .65 |
| 29.教師は十分に準備し熱意を持っていた | 77.3 | 22.7 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 4.77 | .42 |
| 30.授業の時間配分は適切であった | 31.8 | 47.7 | 18.2 | 0.0 | 0.0 | 79.5 | 4.09 | .77 |
| 31.授業の理解を深めるための補助手段は適切に用いられていた（VTR プリント，レポートなど） | 13.6 | 38.6 | 43.2 | 4.5 | 0.0 | 52.3 | 3.61 | .78 |
| 32.私はこの授業を真剣に学ぼうと努力した | 47.7 | 36.4 | 13.6 | 0.0 | 2.3 | 84.1 | 4.27 | .87 |
| 33.私はこの授業期間を通して常に出席しようと心がけた | 59.1 | 31.8 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 90.9 | 4.50 | .66 |
| 34.私はこの授業を他の学生に薦めたい | 88.6 | 6.8 | 4.5 | 0.0 | 0.0 | 95.5 | 4.84 | .47 |
| 35.授業の総合評価 | 81.8 | 18.2 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 100.0 | 4.82 | .39 |

## 2. 総合評価に寄与する要因

授業における総合評価が，どの要因に依存しているかを明らかにするために質問紙作成の際に設定した「授業の目標」に関する項目，「授業の方法・内容」に関する項目，「授業の成果」に関する項目，「指導者」に関する項目，「コミュニケーション」に関する項目，「自己評価」に関する項目のそれぞれについて，クロンバックの$\alpha$係数を算出し，項目の信頼性を検討した。その結果を表3に示す。「指導者に関する項目」を除いた5つの項目において0.7以上の数値を得た。従って表3の5項目の信頼性は高いと考えられる。

**表3．各項目における信頼性の評価**

| 項目 | $\alpha$値 |
|---|---|
| 授業の目標に関する項目 | .861 |
| 2. 自然の中でのルール，エチケット，マナーが理解できた | |
| 3. 周りの自然環境に対する理解が深まった | |
| 4. 自然の中での過ごし方についてバリエーションが広がった | |
| 5. 危険性の認識と自己の安全の確保について理解できた | |
| 8. 自然の中での身体的な活動について認識が深まった | |
| 授業の方法・内容に関する項目 | .730 |
| 14. 班分けの方法は適当であった | |
| 15. 事前のオリエンテーションは良かった | |
| 16. テント・タープの設営実習は良かった | |
| 17. アウトドアクッキングは良かった | |
| 18. 各種選択プログラムは良かった | |
| 19. ナイトプログラムは良かった | |
| 20. モーニングプログラムは良かった | |
| 21. 会食形式のパーティーは良かった | |
| コミュニケーションに関する項目 | .826 |
| 6. 友人や教師とのコミュニケーションについて理解できた | |
| 23. 教師とのコミュニケーションは十分であった | |
| 24. 学生とのコミュニケーションは十分であった | |
| 授業の成果に関する項目 | .801 |
| 25. 授業は創造性に富むものであった | |
| 26. この授業から触発されるものが多かった | |
| 27. この授業から自分の期待していたものが満足された | |
| 自己評価に関する項目 | .832 |
| 32. 私はこの授業を真剣に学ぼうと努力した | |
| 33. 私はこの授業期間を通して常に出席しようと心がけた | |
| 34. 私はこの授業を他の学生に薦めたい | |

次に，授業評価における上記5項目のうち，どの項目が総合評価に寄与しているかを明らかにするために，総合評価を目的変数としてステップワイズ式の重回帰分析を行った。その結果を表4に示す。偏回帰係数が有意であった変数は，選出順に「授業の成果」に関する項目，「授業の方法・内容」に関する項目であった。

**表4．重回帰分析の結果**

| ステップ | 予測変数 | R2 | 回帰係数 | t値 | p値 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 授業の成果 | .238 | .416 | 2.941 | .0054＊＊ |
| 2 | 授業の方法・内容 | .345 | .401 | 2.883 | .0063＊＊ |

$p<0.01$

従って，本授業における総合評価は授業の成果に関する項目及び授業の方法・内容に関する項目に大きく依存していると考えられる。すなわち，これらの項目が総合評価の予測変数として有効であり，授業の成果及び授業の方法・内容について高い評価を得るような授業展開が学生の授業に対する総合評価を高めるものと推察される。

マリン実習を事例に授業評価を行った舛本ら[2]は，「対教師コミュニケーション」，「創造性に富む授業」，「触発されるものが多かった」，「自分の期待していたものが満足された」の順で満足度が高いと報告している。また，スキー実習を事例に授業評価を行った本間ら[1]は，「基礎技術の習得」，「授業の雰囲気」及び「自己評価に関する因子」が総合評価の予測変数として有効であると報告している。本研究においても，「触発されるものが多かった」等の授業の成果に関する項目において同様の結果が得られた。また，先行研究ではみられなかった授業の方法・内容に関する項目が，総合評価に寄与する要因として挙げられたことは，授業内容が本授業における総合評価に大きく寄与していることを示唆していると考えられる。

### 3. 授業評価における自由記述のまとめ

統計による平均化を避け，項目以外での学生の率直な意見を引き出すため，自由記述の欄を設け，授業の良かった点，悪かった点，改善方法，その他についての記述を求めた。そのうち授業の良かった点，悪かった点に関する自由記述の概要を表5に示す。

良かった点では，「選択プログラムが良かった」等のプログラムに関する項目，「自分がやりたいと思うことを自由にできた」等の自由・ゆとりに関する項目，「普段できないスポーツができた」等の非日常的経験に関する項目が多く見られ，授業の方法・内容に関する評価が高いことを示している。また，「友達が増えた」等のコミュニケーションに関する項目も多く見られた。

一方，悪かった点では，「各プログラムの時間を長く」等のプログラムに関する項目，「時間的な余裕のなさ」等の時間に関する項目，「日数が短い」等の日程に関する項目が多く見られた。これは，3泊4日という短い日程の中で様々なプログラムを行うことによる弊害が指摘されていると考えられ，今後の改善点として挙げられる。その他，「交通手段の確保が大変」等の交通手段に関する項目も多く見られた。これらの意見をフィードバックしさらに良い授業を目指す努力が必要であると考えられる。

**表5．　自由記述の概要**

| 良かった点 | 悪かった点 |
|---|---|
| プログラムに関する項目（13） | 交通手段に関する項目（6） |
| 　選択プログラムが良かった | 　交通手段の確保が大変 |
| 　パーティーが良かった | プログラムに関する項目（5） |
| 　星を見に行ったこと | 　各プログラムの時間を長く |
| コミュニケーションに関する項目（11） | 時間に関する項目（5） |
| 　友達が増えた | 　時間的な余裕のなさ |
| 　男女，学年関係なく交流できた | 日程に関する項目（3） |
| 自由・ゆとりに関する項目（10） | 　日数が短い |
| 　時間にゆとりがあった | 生活に関する項目（3） |
| 　自分がやりたいと思うことを自由にできた | 　アルコールに関する厳しさ |
| 非日常的経験に関する項目（5） | 用具に関する項目（3） |
| 　普段できないスポーツができた | 　包丁，まな板の不足 |
| 　様々な体験ができたこと | コミュニケーションに関する項目（3） |
| 指導者に関する項目（4） | 　全員の自己紹介必要 |
| 　スタッフの熱意が伝わった | その他（7） |
| その他（6） | 　書かせるものが多すぎる |
| | 　最初の班編成 |

## ま と め

本研究では，1996年７月に実施された集中授業「アウトドアレクリエーション」履修者45名を対象に，学生による授業評価を実施し，授業の目的，方法，成果等を検討することにより，授業のフィードバック情報を得て，今後の授業の充実に関する基礎資料を得ることを目的とした。

その結果以下のことが明らかとなった。

1. 授業の総合評価では，「非常に良かった」が81.8％を占め，「良かった」の18.2％を合わせると肯定的評価が100％となり，高い割合を示した。総合評価の５段階評価について，「非常に良かった」（５点）から「非常に悪かった」（１点）を与えたところ平均値は4.82であった。
2. 授業評価において肯定的評価の高かった項目として，「各種選択プログラムは良かった」，「学生スタッフは良かった」，「教員は十分に準備し熱意を持っていた」等があった。一方，相対的に肯定的評価が低く，改善を要すると考えられる項目として，「理論と実技を関連づけて学習できた」，「事前のオリエンテーションは良かった」，「授業の理解を深めるための補助手段は適切に用いられていた」等があった。
3. 授業の総合評価に寄与する要因として，「授業の成果」に関する項目及び「授業の方法・内容」に関する項目があった。
4. 自由記述において，良かった点として「選択プログラムが良かった」，「自分がやりたいと思うことを自由にできた」等の授業の方法・内容に関する記述が多く見られた。一方，悪かった点として「時間的な余裕のなさ」，「日数が短い」等の日程に関する記述が多く見られた。

今後，引き続き本授業で授業評価を行っていく際，Ｎ数が十分でないことが問題点の一つとして挙げられる。そのため，質問項目の精選，縦断的な調査の実施，自由記述の分析方法など多角的な分析・評価が必要であると考えられる。また，実習直後の高揚感により，授業評価の得点が高めにシフトしていることも考えられ，調査を行う時期についても検討の余地があると思われる。

**引用・参考文献**


1) 本間崇・千足耕一・布目靖則・南隆尚（1995）正課体育スキー実習における学生による授業評価，大学体育研究，第17巻，第１号，pp. 49-56.

2) 舛本直文・綿祐二（1993）大学体育における学生評価「保健体育講義」と「体育実技コース：マリン」の経年変化を中心に，東京都立大学体育学研究，第18号，pp. 61-67.

3) 森敏生（1994）自然と文化を志向した大学体育の模索（編）全国大学体育連合「大学体育の展開―授業実践・シラバス―」，pp. 43-51，（社）全国大学体育連合.

4) 中野友博・飯田稔・井村仁・宍戸和行・福島邦男（1992）学生による授業評価の試み－筑波大学体育専門学群野外運動理論・実習（雪上）を事例として－，日本体育学会第43回大会号 B，pp. 768.

5) 高橋健夫・長谷川悦示・刈谷三郎（1994）体育授業の「形成的評価法」作成の試み：子どもの授業評価の構造に着目して，体育学研究，第39巻，１号，pp. 29-37.

6) 綿祐二・舛本直文（1993）「体育実技Ｂコース：スキー」における学生による授業評価，東京都立大学体育学研究，第18号，pp. 53-59.